

次期学習指導要領 1枚まとめ｜中学校

特別活動 中学校

子供が学級・学校をよりよく創る「社会創造」の活動へ

10秒でいうと 生徒会（小は児童会）が校則など学校運営に意見を出す活動に。評価は個人内評価へ

中学校でも、生徒が学級や学校という身近な社会をよりよく創る「社会創造」の視点で特別活動を見直す方向です。生徒会活動には、校則など学校運営への「意見表明」を書き込む案です。学級活動の項目数が多い点は、中・高を中心に精選する方向です。学校行事は、生徒たちが創造する活動だと明確にします。AIは役立つ場面がある一方、話し合って決める主体はあくまで生徒です。

1 生徒会が校則などに意見を出す

生徒会活動は、校則など学校のルールづくりをはじめ、学校運営に生徒が関わる仕組みだと明示する方向です。先生の適切な指導が前提です。生活上の課題について生徒が提案し、先生との話し合いを通して学校運営に関わる「意見表明」の記載を設ける案です。P355

授業では たとえば生徒会が服装や持ち物のきまりについて全校の意見を集め、根拠を添えて先生方と話し合う場をつくることが考えられます。

2 学級活動の内容を整理し、数をしぼる

学級活動(1)は、アで学級内の課題、イで学級内の組織や役割、ウで学級をこえた学校の課題を扱うと区別する案です。(2)(3)は、とくに中・高で項目数が多いとの指摘から精選する方向です。SOSの出し方に関する教育などへの対応もはっきりさせます。P354

授業では たとえば年間計画の学級活動の題材を一覧にし、重なっているものをまとめて、生徒が話し合う時間を確保することが考えられます。

3 学校行事は生徒が創る。「文化・学習発表的行事」

学校行事は、子供たちが創造する活動だと明確にする方向です。また「文化的行事」の名前に学習発表会の要素を加え、「文化・学習発表的行事（仮称）」とする案です。「好き」や「得意」を伸ばした成果を発表する場として位置付けます。P355 P357

授業では たとえば文化祭で、総合や部活動で取り組んだ成果を発表する枠を設け、企画から生徒が担う形が考えられます。

4 AIは補助に。決めるのは生徒

中学校の生徒会で、総会の議事録をAIでまとめて運営を効率化するといった例が示されています。一方で、合意形成や意思決定の主体は、あくまで子供たちが担うことが留意点とされています。誤った情報への注意も必要です。P362

授業では たとえば生徒会の企画づくりで生成AIに案を出させ、それをたたき台に生徒どうしで話し合って決めることが考えられます。生徒が使うときは、学校が認めたサービスを、年齢制限や保護者の同意を確かめたうえで先生の指導の下で使い、名前や写真などの個人情報は入力させません（文部科学省の生成AIガイドラインP19）。

ほかにも変わること（中学校）

- 学級活動（ホームルーム活動）の項目名と内容を整理し直す P353 P354
- 学級活動を「学級経営の要」、生徒指導・特別支援の「要」と明確化 P349 P350 P95
- 評価を「学びに向かう力」の個人内評価とし、過度な評価材料集めを抑える案 P361 P346
- 児童会・生徒会活動に「学校運営への意見表明」を書き込む P355 P363 P364
- 学校行事は「子供たちが創造する活動」に。文化的行事は「文化・学習発表的行事（仮称）」へ P356 P357
- キャリア教育の役割分担と「キャリア・パスポート」の見直し P358 P359 P95
- 「合意形成」「意思決定」の意味と進め方を示す P345 P359 P360
- 三つの視点と用語の見直し（「社会創造」「主体的」など） P351 P352

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。